



「ツバメの不思議」

校長 藤田 賢一郎

ツバメほど短期間ではありませんが、人間の子どもあつという間に就学を終え社会に巣立ち、自立・自律した大人であることを求められます。

6月の全校朝会では、巣立ちまでの一日一日を大切に過ごしてほしいとの願いを込めて、次のように語りかけました。

数年前から、自宅にツバメが巣を作るようになりました。一週間ほど前、そっと巣をのぞいてみると、ヒナが三羽いました。ヒナは、のぞかれても驚きもせずにじっとしていたのですが、親ツバメが戻って来ると、信じられないくらい元気な声でピーピーと鳴きながら、口ばしをいっぱいに向けて餌を求めました。親ツバメは、すぐには餌をやらずに、私の頭上を旋回しながらバタバタと羽音をたてました。ヒナを守るために、私を威嚇(いかく)し、巣から遠ざけようとしたのでしょう。

ツバメは冬の間、暖かいオーストラリアや東南アジアの島々で過ごし、春に海を二千～四千キロも超えて日本にやって来る「渡り鳥」ですが、ツバメには不思議がたくさんあります。

ツバメはどのくらいの日数をかけて渡って来るのか？嵐や外敵に遭遇して命を落とすこともあるのに、なぜ、危険を冒してまで渡ってくるのか？地図もGPSも持たずに、どうして、迷うことなく日本に渡ることができるのか？なぜ、人間から見るところに巣を作るのか？など、ツバメの不思議を調べてみると、なるほどとうなずく発見がたくさんあります。

さて、ツバメは、春、無事に日本に渡ると、休む間もなくつがいとなり、せっせと巣作りを始めます。卵を産み、卵を二週間くらい温めてヒナが孵(かえ)ると、今度は一日に百回、二百回とヒナに餌を運びます。餌運びはヒナが飛べるようになるまで三週間ほど続きます。飛べるようになった子ツバメは、親ツバメから、上手な飛び方や餌の取り方、身の守り方など、たくさんのことを学びます。南の島まで何千キロも飛んで行けるよう

に、体力や筋力をつけるトレーニングもします。

秋が訪れると、親ツバメは日本で生まれた子ツバメを残して一足先に南の島へ渡ります。子ツバメは、秋も深まり涼しくなった頃、親ツバメとは別に、南の島へ向けて初めての冒険をするのです。

自宅のヒナは、昨日から羽ばたきの真似事を始めました。飛べるようになる日も、そう遠くはなさそうです。私は、ヒナが無事に育って親ツバメが待っている南の島に渡り、翌年の春、また日本に帰っておいでと祈らずにはられません。

皆さんも、義務教育期間中である今は、家族や地域の方々、教職員に見守られて生活しています。しかし、やがて学校を巣立ち、社会に出る日を迎えます。

「春、親ツバメに見守られ、一日に何百回も餌を運んでもらったヒナは、自分で飛べるようになると、夏にかけて生きていくための学習とトレーニングを重ねる。秋になると、一足先に南の島に渡る親ツバメを見送り、秋が深まると、自力で何千キロも離れた南の島へ向けて飛び立つ」子ツバメの成長に自分を重ねてみると、皆さんは今、どの季節でしょうか？3年生の皆さんは、先日も高校説明会を行いましたし、季節の巡りは相当進んでいますね。1、2年生の皆さんも、まだ春、まだ夏と思っているうちに、あつという間に秋を迎えることでしょう。

今から一日一日を大切に過ごして必要な力(資質や能力)を付け、巣立ちのその日を迎えてほしいと思います。頼もしいことに、皆さんを温かく見守ったり支えたりしてくださる応援団が、皆さんの周りにたくさんいます。

生徒一人一人が、「ツバメの不思議」を今の自分や将来の自分に重ね合わせて、卒業や自立・自律に思いを馳せたようです。

私たち教職員も、親ツバメを思い、保護者、地域の皆さんの応援に感謝しつつ、誠心誠意、教育活動に勤しむ決意を新たにしました。

第1回生徒総会

今年度は体育館で実施しました！

日々前進する板倉中を目指して

5月18日(火)に今年度第1回の生徒総会を行いました。

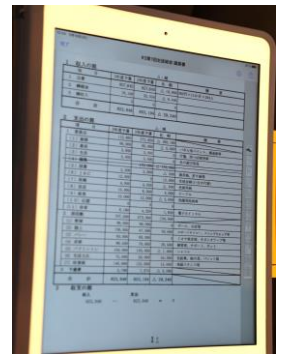
生徒総会は、今年度の生徒会の活動方針や活動計画について生徒全員の参加により協議し、決定していく場です。昨年度はコロナ禍のため放送による生徒総会となりましたが、今年度は、様々な対策を講じながら、体育館で実施しました。また、総務委員と委員長の生徒は、iPadを使用して発表や進行を行うという取組に、挑戦しました。



生徒総会は、今年度の生徒会活動の方向性を決める大切な会議です。特に、生徒会活動をリードする総務



委員や委員長、部長にとっては一大イベントです。ここに至るまでに、総務委員を中心に何度も話し合い、学級での討議を経て、リハーサルを繰り返して本番に臨みます。リーダーの生徒たちは、3月のリーダー研修会、4月の生徒会入会式、そしてこの5月生徒総会と多忙な毎日でした。総会で全校生徒の承認を得て、今年度の活動方針をもとに、各委員会、部活動の活動が動き出しています。「共創～今できることを



全力で～」のスローガンのもと204人で頑張ってくれることを願っています。

委員会活動、頑張っています

～各委員会の活動から～

早速、生徒の創意を生かした活動が行われています。2つの委員会の取組を紹介します。

体育委員会「心を通わす縄跳び大会」

5月25日(火)26日(水)の昼休みに、体育委員会主催の『心を通わす縄跳び大会』が行われました。「新しいクラスの団結力を高めよう」というねらいのもと、各クラス男女別に、1分間に跳べた8の字跳びの回数を競いました。当日は、全員で息を合わせ、声をかけ合いながら全力で縄を跳ぶ、白熱した縄跳び大会となりました。全員で最高記録を目指して真剣に跳ぶことで、クラスの団結力は一層、高まったようです。



【結果】

1位	2年2組	男子	82回
2位	2年1組	女子	76回
3位	3年3組	男子	71回
	3年3組	女子	71回

終了後のアンケートでは、「楽しかった。」「またやりたい。」「協力できよかった」などという感想が多く見られました。また、「決勝戦もやってほしい。」「男女別ではなくクラス対抗でやってみたい」などという声も聞かれました。

この縄跳び大会で高まった団結力を、ぜひ日々の授業やこれから行われる体育祭などの行事で生かしてほしいと思います。

図書委員会「源氏物語紹介コーナー」

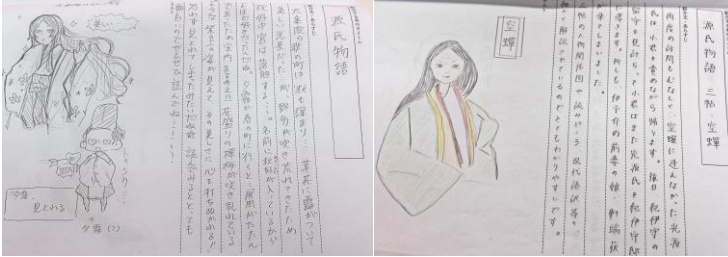


先月号でお知らせした、寄贈いただいた源氏物語の書籍を紹介する、「源氏物語にふれる」コーナーが、図書室に設置されました。

源氏物語に関連した本とともに、図書委員1人1人が源氏物語から選んだ

巻を紹介した冊子も置かれ

ています。源氏物語とともに、ぜひ手に取って読んでほしい力作ぞろいです。



オリンピック聖火リレーを盛り上げました



6月4日（金）に、上越市で聖火リレーが行なわれました。生活文化部の3年生が、応援横断幕を作成し、沿道に飾っていただきました。



部長のYKさんは、全校生徒へのお披露目の際、「この横断幕を作ろうと思ったときに、最初に浮かんだ言葉が『繋げ』でした。聖火には、多くの人々のさまざまな思いが込められています。例えば、感謝や喜び、未来への希望。私たちは、聖火に込められた思いを、オリンピックの五つの色を表す○に象徴させ、横断幕に散らして描きました。いつでも希望をもって頑張る姿を次の世代へつなげていきたいという思いを込めて、この横断幕を作りました。この横断幕が少しでもランナーの方たちの力になれば、うれしいです。」と、思いを語りました。きっとこの思いが、皆さんに届いたことでしょう。

●サポートランナーとしてがんばりました！

6月4日（金）、上越市立春日小学校からリージョンプラザ上越までの約2.6kmを12人の聖火ランナーが聖火を掲げ、リレーしました。上越市は、第1区間の糸魚川市から聖火を受け取って第2区間でした。その様子は、“NHK聖火リレーライブストリーミング”で放映され、ご覧になった方も多と思います。ゴールのリージョンプラザ上越では聖火の到着を祝うイベントが行われました。本校を



「ようこそ、上越市へ！」のロゴ入りポロシャツです

代表し、3年生MTさんがサポートランナーとして、市内各中学校からの代表と一緒にそのイベントに参加し、立派にその大役を務めました。その時の様子は、後日、全校朝会で伝えてもらう予定です。



